

# 手賀沼に鮭が遡上!?

取手市 佐々木 牧雄

今春手賀沼漁業協同組合の深山正巳組合長にお話を伺った時に、「昨年は、今までになかった珍しいことがあったんですよ」と教えて下さった。それは、秋に手賀川を鮭が遡ったそうである。一人の漁師で五〇匹も網に入ったとのことである。手賀沼浄化の表れとは喜ばない問題がある。

## 一、きれいになった手賀沼

平成十四年十二月の環境省の発表で、平成十三年度の年間平均のCODの値で二八年間譲ることがなかった汚濁湖沼ワーストワンの座を明け渡し、手賀沼の汚れを憂いていた人々を喜ばせた。一四年度のデータでは九位になるという驚くべき水質改善を達成した。

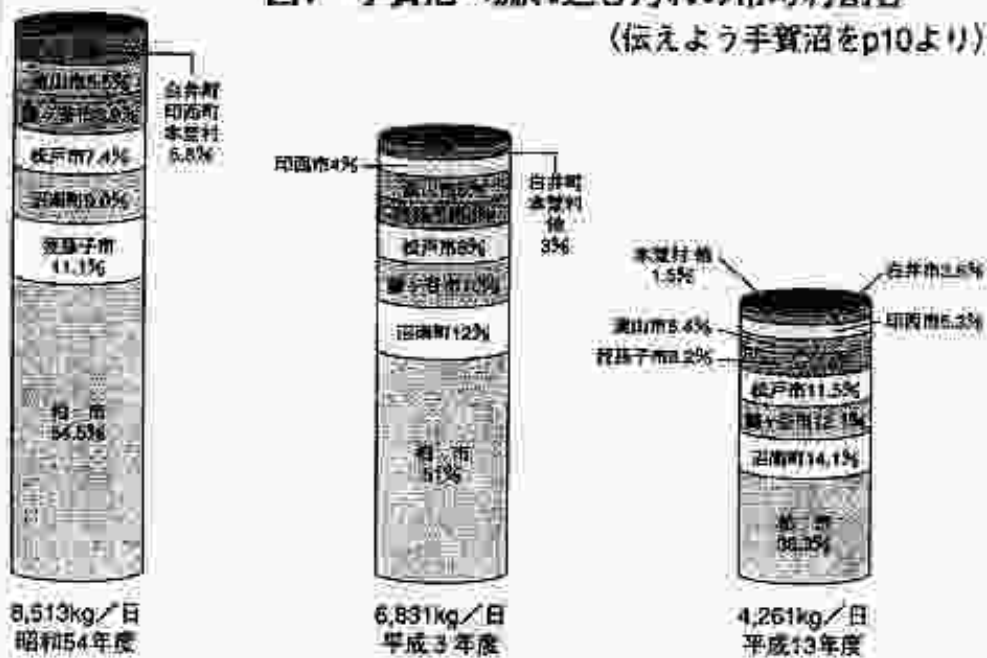
この水質改善の背後には、流域下水道の普及率が向上し、汚れた水が手賀沼に入る量が少なくなったことが考えられる。図1のように流入汚濁負荷物質が、昭和五四(一九七九)年の日糧約八五〇〇kgから平成十三(二〇〇一)年の約四三〇〇kgと明らかに減少している。手賀沼流域人口の五六%を占める柏市の手賀沼流域下水道の普及率は平成十四

年には八〇%を越えるほどになっていてるので汚濁物質が手賀沼に流入しなくなっている。

また、平成十二年度に本格的に稼働した北千葉導水路事業の手賀沼への注水が水質改善に大きな役割を果たした。図2のグラフは、平成

十一年度から一四年度までの月別のCOD値である。平成十二年四月の正式稼働からCOD値が下がり始めた。しかし、平成十三年の七月からCOD値が急上昇する。この夏は少雨で利根川からの取水が制限され、七月から手賀沼への注水ができなくなった。少雨なので沼へ流入する水は生活排水と産業廃水が主となり汚水の濃度が高くなり、沼のCODは汚濁がひどかった頃の数値に近い状態になって、沼べりにはアオ

図1 手賀沼へ流れ込む汚れの市町村割合 (伝えよう手賀沼をp10より)





機場、柏市戸張に第二機場、松戸市主人新田に第三機場を設けている。北千葉導水路事業のパンフレットによると、三つのねらいが記されている。

①内水面排除 洪水の時、利根川や江戸川の水門が閉まり都市部や住宅地に降った雨水が排出できず洪水になるので、毎秒八〇トンの水を排出し洪水を防ぐ（第一機場・第三機場）。

②都市用水の供給 渇水で首都圏の水が不足した時、第一機場で利根川の水を毎秒四〇トンを揚水し北千葉導水路を通して江戸川へ送水する。

③手賀沼浄化 柏市戸張の第二機場から手賀沼に利根川の水を最大毎秒一〇トンを希釈水として注水する。流



大堀川に流される利根川の水

山市駒木から大堀川に毎秒〇・五トンを注水する。

手賀沼に注水しているのは、毎秒五〜七トンの日が多いが一〇トンということもあった。これで、手賀沼の水は一ヶ月に二回入れ替わっていたものが、一ヶ月に一〇回近く入れ替わることとなった。手賀沼浄化に大きな効果

を生み、COD低下が顕著となり、全国九位になった所以である。しかし、下流の漁協からは手賀沼の汚れの拡散という抗議があり、太平洋の産卵場所に下るくんだりウナギの漁獲が減少しているという報告もある。

#### 四、手賀沼に鮭の遡上は似合わない

大堀川流域の高田小学校の大堀川生き物調査で汽水域に生息する魚が見つかったとされるが、上流流山市駒木橋で利根川の水が注水されているので当然であろう。手賀沼も生態系に変化が見られているという。その最たるものが鮭の手賀沼への遡上である。手賀川での漁獲の他、第二機場の放流口まで遡上した鮭が二匹確認されている。利根川の水が注水されているので、水の臭いを求めて手賀沼に遡上したのである。深山組合長が言うように鮭の遡上は今までになかったことである。鮭は四年間北太平洋を泳ぎ、ふるさとの川に帰ってくる。通常の河川では、回帰率は、〇・三%とされる。海までの距離が長い利根川では海にたどり着くまでに食べられる可能性が高く回帰率は更に低くなってくる。そのような旅をしてたどり着いた先が手賀沼の奥の放流口では余りに寂しい。利根川からの注水による浄化という人間の選択に対し、鮭という生き物が答えを出しているのではないだろうか。

（柏市立松葉第一小学校）